

令和元年度第1回袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議

1 開催日時 令和元年5月23日(木) 午前10時開会

2 開催場所 市役所旧館3階大会議室

3 出席委員

委員長	和田 操	委員	高橋 悦子
副委員長	武井 千尋	委員	清水 和也
委員	井上 美鈴	委員	神崎 保
委員	福原 祐子	委員	大熊 賢滋
委員	小熊 良	委員	多田 令子
委員	江澤 孝	委員	鈴木 美由紀
委員	柳瀬 芳枝	委員	谷本 有美
委員	小林 清子	委員	松下田 美幸
委員	田中 直子		

4 欠席委員

委員	小貫 篤史	委員	寺田 陽一
委員	福島 桜子		

5 出席職員

福祉部長	今関 磨美
子育て支援課長	生方 和義
子育て支援課子育て環境推進班長	漆原 聡美
子育て支援課こども家庭班長	長谷川 操
子育て支援課子育て環境推進班 副主査	巽 浩二郎
子育て支援課子育て環境推進班 主任主事	小野 さおり
保育課長	田中 敦則
保育課保育班長	勝畑 孝光
健康推進課上席保健師(すこやか親子班長)	茂木 敬子
学校教育課副参事(指導班長事務取扱)	磯部 正史
学校教育課副課長(学事保健班長事務取扱)	竹川 義治

6 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

7 議題

- (1) 子育て支援施策について
- (2) 次期「袖ヶ浦市子育て応援プラン」の策定について
- (3) その他

8 議事

1 開 会

2 委嘱状交付

※市長より名簿順に委嘱状を交付

3 市長挨拶

※市長より挨拶・市長退席

4 出席者紹介

※各委員自己紹介・事務局職員紹介

5 委員長及び副委員長の選出

事務局

続きまして、委員長及び副委員長の選出に入らせていただきます。

袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議条例第5条では、委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により定めることとなっております。選出にあたりまして、今関福祉部長に進行役を務めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

※異議なしの声

それでは今関福祉部長に進行をお願いいたします。

今関福祉部長

それではこれより、袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議の委員長・副委員長の選出を行いたいと思います。その前に、この会議の目的等につきまして、事務局に説明をお願いいたします。

事務局

それでは当会議の目的、概要等についてご説明させていただきます。お席にお配りしました「袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議条例」をご覧ください。

当会議の設置については、条例第1条において、本市における子ども・子育て支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために、子ども・子育て支援法第77条第1項の規定に基づき、袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議を置くこととされております。

会議の所掌事務につきましては、条例第2条にあるとおり、(1)特定教育・保育施設、いわゆる保育所等の利用定員の設定に関して審議し、意見を述べること。(2)特定地域型保育事業、いわゆる小規模保育事業、あるいは家庭的保育事業等に関する利用定員の設定に関して審議し、意見を述べること。(3)市町村子ども・子育て支援事業計画に関して審議し、意見を述べること。(4)次世代育成支援対策推進法の規定に基づく市町村行動計画に関して審議し、意見を述べること。(5)本市における子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し、必要な事項及び当該施策の実施状況を調査審議し、意見を述べること。以上となります。

今関福祉部長

それでは、今、事務局から、子ども・子育て支援会議の設置の趣旨や、また、どのようなことをするか、会議で担当する事務所掌につきまして、説明がありました。委員の皆様から、御質問等

はございますでしょうか。御質問がある方は、挙手をお願いいたします。

御質問等がないようでしたら、まず委員長の選出の方法につきまして、どのようにしたらよいか、委員の皆様にお諮りいたしたいと思います。御意見をお願いいたします。

柳瀬委員、お願いいたします。

柳瀬委員

キッズパレットの和田委員をお願いしたいと思います。

今関福祉部長

ありがとうございます。

今、柳瀬委員さんから、キッズパレットの和田委員を委員長にといつた御提案がございました。御意見いただいたところですが、委員の方々、いかがでしょうか。

※異議なしの声

今関福祉部長

ありがとうございます。

それでは、NPO 法人キッズパレットの和田委員、御承諾いただけますでしょうか。

和田委員

私であれば、務めさせていただきたいと思います。

今関福祉部長

それでは、子ども・子育て支援会議の委員長は、和田操委員に決定をいたしました。

続きまして、副委員長の選出方法につきまして、どのようにしたらよいか、お諮りいたします。委員の皆様のお意見をお願いいたします。

大熊委員、お願いいたします。

大熊委員

立候補がなければ、推薦させていただきたいのですけれども、よろしいでしょうか。

私から、みどりの丘保育園の武井委員を副委員長に推薦したいと思います。

今関福祉部長

ありがとうございます。

ただいま商工会の大熊委員から、武井委員を副委員長にという提案がございましたが、皆様、いかがでしょうか。

※異議なしの声

今関福祉部長

ありがとうございます。

それでは、武井委員、御承諾をいただけますでしょうか。

武井委員

経験・知識はあまりありませんけれども、推薦いただきましたので、やれる範囲でやらせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

今関福祉部長

それでは、本会議の副委員長は、武井千尋委員に決定いたしました。和田委員長、武井副委員長、よろしく願いいたします。

以上で、委員長及び副委員長選出の進行役の任を解かせていただきます。御協力ありがとうございました。

事務局

それでは、ただいま委員長、副委員長を選出していただきましたので、委員長、副委員長におかれましては、所定の席へお移りいただきたいと思います。

委員長、副委員長挨拶

※委員長、副委員長より挨拶

6 議 題

(1) 子育て支援施策について

和田議長

それでは、事務局から、議題「(1) 子育て支援施策について」の説明をお願いします。

※事務局から資料により説明

【 質疑・応答 】

和田議長

ありがとうございました。

今、議題(1)について説明がございましたが、質疑を受け付けしますので、質疑をされたい方は挙手をお願いします。

小林委員、どうぞ。

小林委員

前年度のアンケートを見せてもらったのですが、とても分厚くて、中の質問もたくさんありました。お母様方は、子育てをして、お勤めをして帰ってきて、家事をやって、分厚いアンケートを書くのは、すごく大変ではないかと思ったのです。だから、半分ぐらいしか返ってこないということになったので、もう少し書きやすく、返事が出しやすいような、中の文言も難しくないものがいいと思います。

国から決まっているとお聞きしたのですがけれども、もう少しやわらかなもので、子どものために頑張って書こうというようなアンケートの工夫ができないかということ、前回、感じました。

和田議長

小林委員から、アンケートを実施する場合には、簡単にわかりやすくという質問がありましたので、事務局のお答えを求めましょう。

事務局

子ども・子育て支援に関するアンケート調査には、袖ヶ浦市内において、教育や保育量がどのぐらい必要かということをもとに算定する、基礎資料とするための調査でございます。

量の見込みの算定については、全国的に統一の基準で算出をすることとなっております。その関係で、質問や選択肢に関しても、かなり形式が固定しているため、そういった意味では、固い文章になってしまっているのは、大変申しわけないと思います。

ただ、今後、内容についてよりわかりやすく、例えば注釈を入れたり、あるいは配置の方法を工夫したり、あとはアンケートがこういった理由で必要ですといったことをお示しするなど、なるべく回答者の方にわかりやすく、かつ負担にならない方法を検討してまいりたいと思います。

小林委員

よろしくをお願いします。

和田議長

小林委員、よろしいですか。

小林委員

はい。

和田議長

ほかにごございますでしょうか。どうぞ。

大熊委員

子ども・子育てに関しまして、保育園・幼稚園の設置は、こつこつと進んでいると思うのですが、現場サイドでは、保育士さんは充足しているのですか。不足しているのではないかと、思うのですけれども、どうなのでしょう。

和田議長

現場で保育士が不足しているのではないかと、という質問があったのですが、事務局、お答え願えますか。

事務局

全国的に見ても、保育士さんが不足しているということで、私どもでも同じように、保育士さんが不足している状況になっています。国の施策として、保育士さんの処遇が悪すぎるのではないかと、ということで、できる限り、保育士さんの処遇をよくしていく。環境ですとか、ぜひやってみたいと思うような潜在的な保育士さんを獲得するためにも、運営費のかさ上げを進めていかなければいけません。

大熊委員

今回の子育て応援プランの中に、保育士さんの確保や育成などの内容を盛り込む考えはありますか。また、冒頭、市長から、転入者がかなり多いということで、その中の転入してきた人材の中に有資格者が結構いるのではないかと思います。そのような人たちを、保育士さんの有資格者のデータベース化や、市でなるべく登録をお願いするようなことはできないのでしょうか。

事務局

駅のディスプレイなどで、保育士さんの募集などの広報をしております、そういったところから、ぜひ来ていただきたいということで、楽しい職場ということをアピールしているところです。

私立保育園も厳しい状況ということは、伺っているのですが、昨今、保育施設が増えていく状況に、教育のほうが進んでいないというところもあるので、保育士さんの処遇を上げるためには、通常のもの以外にもやっていきたいと思っております。

県でも待機児童対策協議会を設けられていまして、そちらでも保育士さんの掘り起こしという議題が上がっていきまして、県全体を通して取り組んでいるところですので、いただいた御意見は、参考にさせていただきたいと思っております。

和田議長

大熊委員、よろしいですか。
ほかにございますか。どうぞ。

井上委員

今の内容に関連してなのですが、保育士さん自身も子育て中で、我が子を預けられないので、働けないという方も結構いらっしゃるという感覚があります。優先的に保育士が我が子を預けられるというシステムにはなっていないので、働きたいのだけれども、子どもを預けるのが難しいという感じです。

あと、入りたてに常勤で働くことは難しく、パートタイムで働きたいという希望がある。ただし、パートタイムで働くと、子どもを預けることは、優先順位としては下がってしまうので、そのあたり、保育士の子育てのサポートを少し考えていくといいと思っております。

和田議長

今のパートタイム、そういった方は、袖ヶ浦市さんの保育士さんでおられますか。

事務局

お勤めが日中だけということで、パートタイムで就労を御希望する方は、若い世代の保育士さんが多いのは実情です。

御自分にお子さんがいらっしゃるということで、預けられないと働きに出られない。私どもでも、保育所に全員希望される方が入れればいいのですが、入れない場合は、どうしても優先順位づけをして、入所を限定するところなのです。

市内の保育施設で保育士さんとして働く方については、点数を非常に高く設定してあり、優先順位的に一番上に来るような形で設定しております。そういった点で支援して、お子さんを預けて、自分が働きに出られるような工夫をしております。

和田議長

よろしいですか。

井上委員

はい。

武井委員

現場目線からお話をさせてもらおうと思うのですが、保育士さんというのは、今、す

ごくストレスがたまる仕事なのです。親御さんの色々な厳しい意見があつたりとか、安全面などを考えると、例えば日中でも遊ばせるときに、もし怪我をさせてしまったらどうしようとか。あとは勤務中にやる仕事が本当に多くて、子どもが午睡しているときに、一緒に連絡帳を書きながらとか。行事があると、少し残ったり、持ち帰ったりという仕事をしているわけなのです。

そうすると、今の若い子は、夢を持って保育士になってくるのですけれども、実際に働いてみると、理不尽なことで怒られたり、様々な面で苦しんでいる姿を見るのです。その辺の精神的なところでは、色々と相談に乗って、緩和してあげようと思うのですけれども、ただ、時給が1,400円ぐらいで募集が出てくると、こんな苦勞をしているのだったら、ほかに行ってしまうという意見も確かにあるのです。

そういったことを考えると、自分も保育園の経営者として、働き方の環境を整えていくことを大事にしていかなければいけないと思っています。

和田議長

ありがとうございました。

ほかに御意見はございますでしょうか。

なければ、次に移りたいと思います。

(2) 次期「袖ヶ浦市子育て応援プラン」の策定について

和田議長

議題「(2) 次期『袖ヶ浦市子育て応援プラン』の策定について」に移ります。事務局からの説明をお願いします。

※事務局から資料により説明

【 質疑・応答 】

和田議長

御苦労さまでした。

ただいま議題(2)の説明がありましたけれども、次期5カ年計画の質疑を行いますので、質問される方は、挙手をお願いします。

高橋委員

そでがうらこども館の高橋です。今日は、利用者さんの声をお伝えしたいと思って、この会議に参加させていただきました。

こども館では、地域の子育てをしているお母さん方がお子さんを連れて、おうちで1人で見るのは大変だけれども、ここだったら、安心して遊ばせられるということで、来ていらっしゃるのです。

その中で、上の子が3歳になったから、幼稚園に入れるのにどこにしようとか、情報を集めてお話しされているのを耳にするのですけれども、公立幼稚園を3歳からの受け入れにしてくれると助かるというお声がたくさんあります。

その点、公立幼稚園が中川1カ所になり、平岡地区は人口が減少していて、臨海部はとて多くなつてはいるのですが、同じ袖ヶ浦でもいいところもある。そういうところもお知らせするきっかけにもなりますので、ぜひ利用者さんの声が届くように、計画の中に公立幼稚園、3歳から受け入れということ、少しでも検討していただければ、子育てをされている方が安心できると思います。

今、働いているお母さんたちには、保育施設を増やすなどの支援がありますが、それだけではなく、働かないで子育てをされている方の支援も、ぜひ心の中にとめていただいて、計画の中に入れていただくといいと思いますので、よろしくお願いします。

和田議長

高橋委員からの質問ですが、事務局の答弁をお願いします。

事務局

公立幼稚園で3年保育を実施していただきたいというお話しにつきましては、以前から頂戴してございます。そのような中、今年の4月に今井幼稚園を中川幼稚園に統合し、1園体制といった形で進めさせていただいております。

また、現場のお声を聞かせていただくと、今井幼稚園から移ってくるお子さんの保護者の方につきましては、登園距離が長くなるといったところで、不安の声も結構あったようなのですが、いざ始まってみると、お子様などは、結構バスに喜んで乗っているようですし、保護者の方につきましても、今まで地区的なところに縛りがあったのが、全市的なところでお母様が集まって、いろいろな情報交換、意見交換もできるといったところで、非常に高評価をいただいております。

このようなことから、今年度は、園児数も多いといったところで、教室数が6つしかなくて、どうしても学年ごとで3クラスずつとってしまうと、それで教室が足りなくなってしまうといった状況が現実的にございます。ただ、これから子どもが全体的に減ってくることもありますけれども、園児数が減ってきて、1学年で2クラスずつという状況になってくると、当然教室数にも余裕が出てきますので、そういったときには、3年保育も検討していかなければいけない、そういった状況になっております。

和田議長

高橋委員、いかがですか。

高橋委員

よろしくお願いします。ありがとうございます。

井上委員

基本的なところがわかっていないので、教えていただきたいと思うのですが、就学前児童の母数は何人いるのかとか、小学生も何人いるのかというところと、年間の出生数は何名ぐらいなのか、もし数字がわかれば、大まかでいいのですが、教えていただければと思います。もしわからなければ、次回でも構いません。

和田議長

事務局、いかがですか。

事務局

申しわけございません。本日は、データをお持ちしなかったもので、次回までにお調べします。

井上委員

どうしてそういう質問をしたのかといいますと、配布数が1,000通で、回答率が61%で、個人的には、アンケートにしては結構頑張ったのではないかと思います。皆さんの意識が高くて、よくしようと思って意見を書いてくださったと思うのです。

母数がそんなに多くなければ、610 通がすごく大多数の意見というか、結構重要な意見だと思ったのです。例えば 1 万人の中の 610 通なのか、それとも、5,000 人、4,000 人、3,000 人の中の 610 通なのか、保護者の方の意見の大多数なのか、そのあたりが変わってくると思ったので、お聞きしました。次回、教えてください。

事務局

次回までにその辺の人口等を整理してまいります。

和田議長

次回の会議までに、出生数や、児童数をよろしくお願ひしたいと思います。
ほかにございますか。どうぞ。

事務局

済みません。事前にお持ちしていればよかったです、先ほど資料をお持ちしました。今年度 5 月 1 日時点なのですが、市内の公立小学校に通っていらっしゃるお子様は、全部で 3,400 人ぐらいです。公立の中学校に通っていらっしゃるお子様は、大体 1,600 人です。

就学前の児童数なのですが、こちらも今年の 5 月 1 日時点で、0 歳児から 5 歳児で、全部で 3,500 人ぐらいとなっております。

内訳で見ますと、5 歳児が大体 590 人、4 歳児が 560 人ぐらい、3 歳児が 620 人ぐらい、2 歳児が 600 人ぐらい、1 歳児が 580 人ぐらい、0 歳児が 550 人ぐらい、およそですけども、そんな形になっています。

井上委員

そうすると、就学前児童の方で、全市で 17% ぐらいの方が回答して、小学生だと 13% で、1 割から 2 割ぐらいの方が回答してくれたということなので、結構大切な御意見になると思います。

事務局

昨年度の人口のデータによると、総人口が 6 万 3405 名で、そのうち 0 歳児が 508 名ということで、現在、出生は 500 名前後ということになっております。

井上委員

ありがとうございました。

和田議長

いずれにしても、アバウトな数字が出ましたけれども、次回までにより正確な数字、細かい数字をこちらに出してください。お願いします。

事務局

承知いたしました。

和田議長

ほかにございますか。田中委員、どうぞ

田中委員

NPO 法人子どもる一ふ袖ヶ浦の田中です。

先ほどこども館の高橋先生のおっしゃったこととつながるのですけれども、私たちが蔵波台で実施している小さなたまり場に来るお母さんの声を紹介したいと思って、お話しいたします。

東京方面から引っ越して来られる方が蔵波台地区も多くて、そうすると、車は1台だけで、自分はペーパードライバーで運転はしないというお母さんたちも結構いらっしゃいます。蔵波台の住宅街の中に、いわゆる支援センターとまではいかななくても、ちょっとしたたまり場のものがあれば、歩いていけるのですが、全部車で行かなくてはいけないということで、本当に困っているという声がありました。

支援センターが偏った場所にあるのだとは思いますが、袖ヶ浦市全域を考えるのであれば、バランスがとれた場所にあつたらいいという気持ちがあります。それが1点です。

子育て応援プランの中にどのように盛り込まれるかわからないのですが、今の討議している内容は、保育の量ということで、量にすごく重点が置かれていて、もう少し保育の質を考えるといいですか、質を考える応援プランであってほしいと思います。先ほど大熊委員が保育にかかわる人たちの働き方に関することとおっしゃっていましたが、そういうことも含めて、特に0歳から2歳の子どもたちが様々な人とかかわって、大切にされて、たくさん遊びをして育っていくところを、全部の子育て手が支えていくという目線が欲しいと思います。

和田議長

松下田委員、今の質問に対しての同じ質問ですか。どうぞ。

松下田委員

ここ10年近くファミリーサポートセンターでお世話になっているのですが、今、田中委員の話されたことを実感しています。今、私が援助している方は、7カ月の子どもさんで、長浦地域の方なのですが、こども館のような施設が地元にあつたら本当にいいと思います。

車を運転していないので、実家も遠方ということで、近くに知り合いもいなくて、7カ月の子どもと毎日いると、泣いたらどうしようもなくなるというお母さんなのです。近くにこども館のようなものが長浦地域にもあつたら、とてもいいと思います。今、働かないと、保育園に預けられないというのが現実なので、働かないでお母さんが見ている方のサポートができる施設があつたらいいと思っています。

それと、袖ヶ浦市では私立の幼稚園に一時保育で預けられることがとてもいいと感じております。その辺の意見を反映されたらうれしいと思います。

和田議長

今、両者から質問がありましたので、事務局の答弁を求めます。お願いします。

事務局

ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

保育の量ばかりでなく、質についても計画に盛り込んでいただければという御意見をいただきました。実際、アンケート調査を行いまして、そこで出てきた数字を見て、計画行政という面から、それに基づいて、整備や人員配置などを考えてございます。

子育て応援プランでございますけれども、先ほど説明しましたとおり、次世代育成支援行動計画と子育て支援事業計画の2本立てになっております。後半の子育て支援事業計画につきましては、数値的なところがメインになってきます。もちろん定性的にどういった内容のものが必要かという話はあるのですが、どちらかといえば、数字がメインです。

前半の次世代育成支援行動計画は、子育てや保育だけでなく、関連する福祉や母子など、それぞれの分野でどういった事業を行っていくかを記載するような内容となっておりますので、ご指摘の

ような内容も見込める計画になっていくと思います。

あと、もう一つ、長浦地区に子ども館のような施設が欲しいという御意見がございました。市内にこども館は、昭和地区に1カ所設置しております。子ども館は、子ども・子育て支援新制度の位置づけでは「子育て支援拠点事業」というもので、一般的には「子育て支援センター」と呼ばれる機能を持つ施設です。子育て支援センターは、こども館以外では、今のところ基本的に保育所に併設するような形で設置をしていただいております。

長浦地区については、例えばみどりの丘保育園さんに子育て支援センターを設置していただいております。場所は、蔵波ということで、非常に広い地域ですので、皆さん、そこに行くのは、なかなか難しいかもしれないのですが、そういった地域の保育施設を利用できない家庭のお子さんでも、利用できることになっています。

和田議長

田中委員、よろしいですか。

田中委員

はい。

和田議長

茅田委員、どうぞ。

茅田委員

私は今回、JA きみつ女性部からの推薦により委員となったのですが、以前は袖ヶ浦市の母子保健推進員として、市の事業である6カ月訪問を行っていました。そのときに、施設のピーアールが足りないのではないかと思ったのです。こども館のこと、園庭開放のこと、市で実施している事業がほかにもいろいろあります。こういうこともやっているのですが、利用なさいましたかとか、御存じですかと聞いても、そういうものがあるのですかとか、知らなかったとか、そういう言葉が大分返ってきたのです。

先ほど田中委員もおっしゃいましたが、歩いていくのには、小さい子どもを乗せていくには、余りにも遠過ぎて、ちょっとそこは無理だということがかなりあったのです。

例えば公民館等を利用して、月に1回でも、2カ月でも何でもいいですので、そういうところでお母さんたちに集まる場所を提供できたらいいのではないかと考えていました。

もう一つ、アンケートで、地区の下にその他があったのです。昭和とか、長浦地区があって、その他というのは、どういうことなのか、少し気になっていますので、お聞きしたいと思います。

和田議長

茅田さん、最初のピーアールについては、要望という格好でよろしいですか。

茅田委員

はい。

和田議長

2点目につきまして、その他について、御説明をお願いします。

事務局

アンケートで地区がその他となっているのは、回答がなかった方です。どちらにお住まいですか

という質問に対する回答が不明だったものについて、その他ということになっています。

和田議長

よろしいですか。

茅田委員

はい。

和田議長

ほかに意見はございますか。大熊委員、どうぞ。

大熊委員

済みません。少し戻りますが、幼稚園・保育園・小規模保育施設の推進はわかるのですが、そのほかに、企業主導型保育施設、事業所内保育所については、市内では1カ所ですか。

和田議長

事務局は御説明をお願いします。

事務局

企業主導型保育施設は、現在、市内にございません。ただ、それとは別の認可外の事業所の保育施設、あと、認可の事業所内保育施設は1カ所ございます。

大熊委員

私は、ある程度従業員さんがいる事業者とお話しする機会があるのですが、ともかく人手不足でどうにもならないということで、保育所ができれば、一発で解消するのではないかという意見を持つ社長さんも結構いるのです。

ただ、中堅企業1社ではできないところではありまして、いろいろ研究しないとわからないのですけれども、企業主導型保育施設や事業所内保育所の担当課は、どこになるのですか。

事務局

まず企業主導型保育事業について、簡単に御説明をさせていただきます。

保育施設といいますのは、基本的に2つに分かれまして、認可を受けて事業を行う認可の保育施設、あと、認可を受けていないのですけれども、一定程度の要件を満たして、県等に届け出を出して行う認可外の保育施設がございます。

企業主導型保育事業は、認可外の施設になります。こちらは、平成28年度に始まった比較的新しい制度です。国が事業を行いたいという事業者さんに直接補助金を出して、保育をしていただくという制度になっております。認可の施設と違いまして、基本的には、事業者さんと国が委託をしている事業者と直接のやりとりになってきますので、自治体は、その間には入ってはいけませんけれども、我々としても、保育の施設整備に関しては、子育て支援課で所管しておりますので、事業者さんからお問い合わせをいただいております。そういったことについては、情報収集をしまして、どういった制度であるかとか、申請先はどこなのかといったお問い合わせに対応できるように、研究をして、情報提供させていただいております。

大熊委員

まだ情報提供という面でわからなかったもので、今後、いろいろとお話しを聞きまして、もしや

りたいという事業所があったら、どんどん進めてもらえれば、市内の保育施設の定員にかかわってくると思いますので、質問させていただきました。今後ともよろしく願いいたします。

和田議長

事務局、どうぞ。

事務局

今の御意見にも関係いたしますが、企業主導型保育という制度ができましたときに、企業さんでそういった保育をやっていただけないかといったようなところで、企業さんが集まる連絡会等に、私どもが出向いて、今度、こういった新しい事業がありますので、ぜひ御検討してくださいといったような御案内はさせていただいております。

ただ、企業様も、保育をやるかどうかというのは、残念ながら、問い合わせはなかったところでもございました。委員さんがおっしゃっていただいたように、企業さんがこういうことをやっていただければ、市内の入所待ちの方の解消につながってまいると思いますので、その件につきましては、引き続き、周知を図ってまいりたいと考えております。

大熊委員

平成 28 年よりもさらに人手が足りなくなってきているので、もしかしたら今後希望があるかもしれない。

和田議長

よろしいですか。

大熊委員

はい。

和田議長

ほかに質問がございますでしょうか。

谷本委員、どうぞ。

谷本委員

私は、小学生と保育園の子を持つ親なのですが、私を感じたのは、保育園施設はたくさん作っていただいていると思うのですが、最近、定員に対する入所率がどうなっているのかということです。

なぜならば、保育園に入っている先生たちの入れかわりがとても激しくて、年々、私の子どもが入所している保育園の先生方は、減っている気がするのです。皆さんのお話しにあったように、保育士の方の仕事量がとても多いと保護者も思うのです。

1 人が見られる児童の人数が増やされたことによる、保育士さんの仕事量も大変だと見受けられます。最近の定員に対する人数とパーセンテージを知りたいというのが 1 つです。

保育補助という方もいらっしゃると思うのですが、例えば御飯を食べた後、おやつを食べた後にお掃除をするのを手伝っていただくとか、保育士さんをお手伝いする方を増やして、保育士さんは違うところに回してもいいのかと。

一時保育を利用したことも過去にありますし、待機児童になったこともあります。そこで感じたことは、保育士さんが 1 人当たり何人見られると枠があるのはわかっているのです。だからこそ応募しても、全く通らないのです。今のバランスは、保育士さんが大変だということを保護者として感じているので、そこも伝えたほうが良いと思いました。

和田議長

今の質問に対する答弁を簡潔にお願いします。

事務局

入所率の話がありましたけれども、年齢で定員が違っていきまして、0歳児ですと、保育士1人に対してお子さんが3人、4歳や5歳児になってくると、1人に対して30人までということで、大分人数が変わってきます。1人で見られる人数が違うので、どうしても定員も階段状になります。年齢が上がるほど、受け入れ可能な人数が増えるので、年齢が下の方ほど、入所状況が厳しいのです。中でも、1カ月、2カ月ぐらいで、お仕事に復帰されたいという奥様が多いので、1歳や、2歳という年齢が厳しいということがあります。

全体としては、定員の100%を超えて、受け入れを行っている状況なのですが、お子さんもさまざまなお子さんがいらっしゃいますので、必ずしも数だけで確保するのではなくて、あわせて質の確保も考えていきたいと思っております。そこはバランスということになるかと思えます。保育士さんが離職してしまうという部分については、対策を打っていききたいと思えます。

和田議長

よろしいですか。ほかにございますでしょうか。

ないようですので、議題（2）につきまして、これをもって終結いたします。

(3) その他

和田議長

次に、議題「(3) その他」です。事務局から、何かございますでしょうか。

※事務局から「袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議 令和元年度の予定」により今年度の会議予定について説明

【 質疑・応答 】

和田議長

ありがとうございました。

今の説明で質問はございますでしょうか。ないようです。

それでは、事務局から連絡事項等はございますでしょうか。

事務局

特にございません。

和田議長

皆さんの貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。本日の議題は全て終わりましたので、進行を事務局にお返しいたします。

7 閉会